

## 第2回キャンパス・アジア学生シンポジウム等を開催

●大学院法学研究科

大学院法学研究科キャンパス・アジアプログラムは、2月7日(土)から9日(月)の間、ES総合館において、「第2回キャンパス・アジア学生シンポジウム」、「第5回キャンパス・アジア法学院長・学部長会議」、「名古屋大学・立命館大学・岡山大学3大学学生交流会」を開催しました。

第2回学生シンポジウムでは、一昨年9月から昨年8月



記念撮影

まで日中韓各国で留学を経験した各国学生が、自身の経験をもとにプログラムの在り方について具体的な提案を行うとともに、留学中に得た知見をもとに学術的な報告を行いました。

第5回法学院長・学部長会議においては、同プログラムの日中韓各国の責任者である法学院長、法学部長が学生からの意見や現状分析などに基づいて本プログラムの成果や今後の課題を報告し、今後のプログラムの在り方や方向性について熱い議論を繰り広げました。

9日には、本学と同様にキャンパス・アジアプログラムに採択されている立命館大学、岡山大学の学生約30名が来校し、本学の同プログラムの学生と交流会を実施しました。交流会では、各大学のプログラム紹介、学生の企画による、日中韓の学生が協力しなければ解決できないゲーム、名古屋城を訪問するフィールドトリップなどを実施しました。学生たちは初対面にもかかわらず、キャンパス・アジアという共通の枠組みがあるためかすぐに打ち解けていた様子でした。

## 展示会「医心 絵心」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、10月8日(水)から1月30日(金)までの間、展示会「医心 絵心－医師たちの画力」を開催しました。これは同館4階にある医学部史料室の所蔵品の中から、医学部及び医学部附属病院に在学・在職した医師による絵画、挿絵などを展示した企画でした。

医術の心得と、絵を描く心得とは通じるものがあるので



展示会の様子

でしょうか。本学の前身である愛知医学校の解剖学者 奈良坂源一郎は、優れた博物画も残しています。故郷の松島にちなんだ松洲という号を持つ奈良坂と、同僚の熊谷幸之輔の書との合作『福如海』は流麗な筆遣いの掛軸です。県立愛知医科大学(本学の前身)の皮膚科学者である太田正雄は、詩人木下杢太郎としても高名ですが、絵画にも才能を現しました。所 輝夫は、日本で初めて人工心臓を開発した戸田 博の『胸部交感神経手術の図』など多くの画業を残しています。学生時代に二科展に入選したことがある杉田虔一郎は、脳動脈瘤手術のために開発した杉田クリップのイラストを、世界の脳外科医のバイブルとされる著書の全ページにわたって描きました。

展示会の準備段階で、解剖学者 小林 繁氏のご家族から、最後の油絵となった『最後の甲斐駒』、消しゴム版画の印譜などを寄贈いただき、より多彩で豊かな展示会を開催することができました。また、著書『したい放題』は、多くの希望者に提供しました。

解剖図、人物、風景、静物など多様なモチーフを描いた医師たちの画力は、多くの来館者の関心を集めました。